



月刊 部口新聞

2014年7月
第85号

編集・発行 Unit

指導者としての資格

世の中には様々な業界で様々な資格があります。

もちろんそれらの資格が同じ価値があるわけではなく、難易度によつてその価値は変わってきます。

受験資格を要するものから誰でもとれるものまで幅もあり、その資格の中にも医師免許のように、その資格がなければ職種として成立しないものから、特に資格が無くても問題の無い職種まで様々なものがあります。

国家資格はない

実はトレーニンング指導は自称で仕事ができる職種です。トレーニンング関係で様々な資格がありますが、どれも国家資格ではなく、協会認定資格です。

ん。指導者は指導される側よりほんの少しの知識さえあれば、指導をする事ができてしまいます。それ故に指導者のレベルは様々で、指導を受ける側からすると、何らかの指標がなければ、その指導者のレベルを判断することは難しいでしょう。資格の意味

指導される側から見たときのひとつの指標になるものが、資格となります。ある資格を保有しているということがある一定レベルを保証するといえます。指導者はその資格を自分のレベルを保証する意味で取得をしています。しかし実はこの資格自体のレベルが指導者間ではわかっていても、一般の人にはわかりにくいところが問題でもあります。

資格のレベル

現在トレーニンング指導に関する資格は、協会も含めて様々なものがあります。中には信じられないかもしれないが、通信教育で取れるトレーニンング指導者の資格もあります。それほどお手軽にとれるものか

ら、高度専門士あるいは学士を持つていなければ受験資格がないものまであります。また合格率もさまざまです。一般的にレベルが低いものは高い合格率の傾向にあるようです。試験は難しい？

じつは学生や指導経験のあまりない方はどうして資格を保有したいため、合格率の高い試験を受験するようです。しかしこれらの資格は落とすためにある試験ではありません。一

定のレベルをクリアさえすれば、誰でも合格できるものです。一般的に難しいといわれているNSCAの試験でも、指導をしてゆくにあつたつての当たり前のことしか試験には出ていないのです。

それが受からないから簡単に受かる資格を取得して、指導をしてゆくことは本末転倒ではないでしょうか。

指導を受ける側の方は、保有資格の英文名にだまされないようにして下さい。

世界で認知されている団体と資格

・ National Strength and Conditioning Association (NSCA)

CSCS : 競技における体力トレーニング指導を専門とする。全世界で 25,000 名以上 (国内 1,100 名以上)

NSCA-CPT : フィットネスクラブなどの運動指導に関する指導を専門とする。全世界で 9,500 名以上 (国内 2,500 名以上)

Unit 代表 澤野 博 (さわの ひろし)

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部口となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のフィジカルコーチ。NSCA CSCS、JADA DCO など保有。
ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。
0422-34-5055 (Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com

はみだし：無資格で指導するには 問題なし 指導レベルの 低さ問題